

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

【実践者】

氏名	北村 望	学校名	東京都 世田谷区立千歳中学校
担当教科等	外国語（英語）	対象学年（人数）	1 年 A 組（34 名） B 組（35 名） C 組（36 名） D 組（35 名） E 組（35 名） F 組（35 名）
実践年月日もしくは期間（時数）		2025 年 10 月 1 日～12 月 16 日（2 時間）	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語（英語）、道徳		
2. 単元名と単元目標 単元名：心と心が「つながる」コミュニケーションとは -国際社会で求められるコミュニケーションを考える- 単元目標：タンザニアの体験記を通して、心がつながるコミュニケーションのあり方について考え、自分の言葉や姿勢で表現するとともに、実際のやりとりを通してその大切さを実感する。 関連する学習指導要領上の目標：（1）聞くこと ア・イ、（3）話すこと [やりとり] イ		
3. 単元の評価 規準	①知識・技能	・英語での簡単な説明を聞き、やりとりをしながら話の概要を掴むことができる。 ・必要なコミュニケーション手段を考え、それらを適切に活用することができる。
	②思考・判断・表現	・タンザニアの体験記をもとに、心と心をつなげるために大切なコミュニケーションのあり方を考え、実際のやりとりの中で適切に表現したり、伝えあったりすることができる。
	③主体的に学習に取り組む態度	・コミュニケーションに興味・関心をもち、特に心と心をつなげるためのコミュニケーションについて学ぼうと、自ら考え、他者とコミュニケーションを図ろうとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 授業者がタンザニアで現地の人々と関わる中で得た気づきをもとに設定した。活動を通して、言葉のやり取り以上に、相手を理解しようとする姿勢や、関係を築こうとする関わり方そのものが、コミュニケーションにおいて重要であると実感した経験があった。これを踏まえ、コミュニケーションにおいて本当に大切なことは何かという問いを、生徒と共に考えることをねらいとした。 【単元の意義】 授業者のタンザニアでの経験を通して、コミュニケーションが人と人をつなぐ重要な役割を持つことに気づかせることをねらいとした。英語を含む様々な手段で伝え合う活動を通して、相手を理解しようとする姿勢や、伝えようとする気持ちの大切さを学ぶ機会とした。これらの学びが、英語学習への動機づけに加え、生徒自身の人間関係や、将来を考えるきっかけとなることを目指す。 【生徒観】 生徒は今年度4月に入学したばかりで、中学校生活や英語学習に慣れつつある段階である。英語の授業は少人数制で、習熟度別ではなく学習レベルが均等になるよう編成している。英語に難しさを感じる場面も見られるが、多くの生徒は粘り強く学習に取り組んでいる。ペアやグループ活動を通して学び合う姿はある一方、相手の考えを受け止めたり、伝え合ったりする関わり方には課題が残る。英語学習への意欲を、世界とのつながりを意識した学びへと、さらに広げていく必要がある。 【教材観】 タンザニアでの実体験を教材として用い、生徒が具体的な場면을想像しながら、コミュニケーションの難しさや喜びを身近に感じられるようにした。導入や簡単なやり取りでは英語を用い、内容理解や思考を深める場面では日本語を用いることで、本質的な学びに集中できる構成とした。	

【指導観】 本時の授業では、英語を「目的」ではなく、人とつながるための「手段」として位置付ける。また、実際にやり取りを行うことで、コミュニケーションの大切さを実感できるようにするとともに、振り返りを通してその気づきを言葉にできるようにする。				
5. 単元計画（全 2 時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	タンザニアと日本の違い（道徳）	・タンザニアの紹介 ・タンザニアへの興味・関心を高めることができる。 ・日本との違いに気づくことができる。	・タンザニアの写真資料を用いて日本との違いについて話し合う。	・タンザニアで撮影した写真
2 本時	心と心がつながる」コミュニケーションとは？ - 国際社会で求められるコミュニケーションを考える -（英語）	タンザニアの体験記を通して、心がつながるコミュニケーションのあり方について考え、自分の言葉や姿勢で表現するとともに、実際のやりとりを通してその大切さを実感する。	・ Greeting ・ 前時で見た写真を見返す。 ・ 写真の中の状況を想像・比較 ・ 写真にまつわるエピソード紹介 ・ 本日のゴールの確認 ・ [Think-Pair-Share] コミュニケーションについて、今までの自分の考えを振り返る。 ・ 心と心をつなぐコミュニケーションをするために大切なものが何かを考える。 ・ [実践]心と心がつながるコミュニケーション ・ まとめと振り返り	・ タンザニアで撮影した写真 ・ 自作スライド ・ ワークシート
6. 本時の展開（2 時間目）				
本時のねらい：タンザニアの体験記を通して、心がつながるコミュニケーションのあり方について考え、自分の言葉や姿勢で表現するとともに、実際のやりとりを通してその大切さを実感する。				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態		指導上の留意点（支援）	
導入 (10分)	○Greetings T: Hello, everyone. S: Hello. T: How are you today? S: I'm fine. / sleepy. / tired. / good. T: Alright. With your pairs, please greet each other. S: Hi. How are you? -I'm fine. / sleepy. / tired. / good. ○写真の振り返り T: I'd like to show you some pictures. Do you remember these pictures? S: Yes. / No. T: Can you tell me something about these pictures? S: These are the pictures from Tanzania. T: Yes. I went to Tanzania during the summer vacation. And in Tanzania, I wondered about something. Today, I'd like to show you 2 pictures.		・ 気持ちの良い挨拶で始める。 ・ 写真を見ながら、タンザニアについて、道徳の時間に学んだこと、知ったことを思い出す。	

展開 (35分)	○写真の中の状況を想像・比較 T: First, please look at the picture A. What do you think they are talking about? What about the facial expressions? What about the atmosphere? S: Serious. / Heavy. / Nervous. T: Then, what about the picture B? What do you think they are talking about? What about the facial expressions? What about the atmosphere? S: Smile. / Fun. / Light. T: So, why are there differences? T: The 1 main difference was...they were talking in English in the picture A and in Swahili in the picture B. But why? ○写真にまつわるエピソード ・タンザニアでの会話の機会 ・英語で話すことで、様々な会話できたこと、通訳として他の先生たちをサポートできたこと。 ・写真 B には隠れている部分がある。→W 先生が存在 ・W 先生のスワヒリ語での活躍の様子 ・スワヒリ語で話されたタンザニア人の「笑顔」と、授業者が感じた「寂しさ」 ・コミュニケーションとは？人の心と心を「つなぐ」コミュニケーションとは？ ○本日のゴールの確認 心と心が「つながる」コミュニケーションとは何かを考えよう！ ○[Think-Pair-Share] コミュニケーションについて、今までの自分の考えをプリントに書く。ペアやグループで共有する。 Q1:タンザニアの人々が母国語で話しかけられたとき、「笑顔」になったのはなぜ？ Q2:今まで、誰かと心がつながったり、意気投合したりした経験は？ Q3:コミュニケーションするとき、普段大切にしていることは？ ○心と心をつなぐコミュニケーションをするために大切なものが何かを考える。 生徒に、コミュニケーションにおいて大切なことが書いてあるカード（例：「相手の話を最後まで聞く」、「相手を尊重する」、「表情」、「質問力」、「言語」、「翻訳アプリ」など）をロイロノートで配る。他に必要なものがあれば、各自で付け足す。カードの中から、最も生徒自身が大切だと思うものを3つ選び、その理由を書く。カードは提出する。ペアやグループで共有する。 ○[実践]心と心をつなぐコミュニケーション 上記のアクティビティで選んだ3つの特に大切にしたいことを意識しながら、ペアを変えながらトピックについて話をする。（例：冬休みの予定、最近食べた美味しいもの、「UFO」や「お化け」は存在する？） ○まとめと振り返り ・タンザニア研修を振り返る by Kitamura	・2枚の写真を比べ、その違いや、特徴に気づかせる。単に情報として理解させるのではなく、生徒が実際の場面を想像しながら捉えられるよう留意する。 ・授業者自身の体験をもとに、何が起り、どのようなやり取りがあったのかをエピソード形式で伝える。 ・本日の目標を明確に伝える。生徒が何について考え、何を大切にしているのかを意識できるようにする。 ・これまでの経験やコミュニケーションに対する考えを、自分の言葉で整理する。その後、ペアや全体で共有することで、他者の考えに触れながら、自分の考えを深める。 ・上記の活動を踏まえ、心と心をつなぐためのコミュニケーションに必要なことについて考える。また、自分の考えを言語化することで、その大切さを意識できるようにする。他者の意見を聞き、考えを深める。 ・本時は、英語で話すことを目的とせず、コミュニケーションの姿勢や、関わり方に意識を向けられるよう、日本語での対話を行う。その際、本時の目標を意識させながら取り組ませる。 ・授業者が実体験を通して感じたことを共有する。その際、特定の答
--	--	--

まとめ (5分)	- 英語も、現地の言葉もどちらも大切。 - 心が「つながる」コミュニケーションには、様々なコミュニケーションスキルや、思いやりや尊重を根底とした態度や姿勢が欠かせない。 - 心が「つながる」コミュニケーションは、日本にいても、世界のどこにいても大切なこと。 - 豊かなコミュニケーションは、人生を豊かにしてくれる。自分の世界を広げてくれる。 - これからも、国際人として通用するコミュニケーションを目指す。 ・まとめ 1.心と心が「つながる」コミュニケーションを意識してみて、思ったこと、考えたこと、感じたことは？ 2.あなたにとって、心と心が「つながる」コミュニケーションとは？ 3.今日の授業を通して思ったことや、考えたこと。	えを示すのではなく、生徒の気づきや考えを広げ、深めるための材料として提示する。 ・本時の学習を振り返り、自分なりの気づきや考えを言語化し、今後の生活や学習につなげる。
7. 資料（教材）・タンザニアで撮影した写真 ・自作スライド ・自作ワークシート		
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 【活動】 ・英語でのやり取りに積極的に参加しようとする姿勢や、コミュニケーションについて考え、表現しようとする姿勢、主体的に活動に参加しようとする姿勢。 【ワークシート】 ・心と心が「つながる」コミュニケーションとは何かを考え、気づきなどとともに自分の言葉で表現している。		
9. 学校外との連携 ※JICA 以外。なければ不要。		
10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど） ① 心と心がつながるコミュニケーションを意識してみて、思ったこと、考えたこと、感じたこと 「コミュニケーションはとても難しいと感じた」「めっちゃ疲れる。これは当たり前でできる人って本当に強い人なんだなって実感した」「少し気をつけるだけで、みんなとの話が楽しくなるんだと思った」「会話が有意義だと感じた」「人と話す事は面白い。自分と違う考えがあって、新しいことがわかった」「これからも意識していきたい」 生徒の記述からは、心と心がつながるコミュニケーションを意識して実践したからこそ得られた、体感的な学びが見られたように感じる。多くの生徒が、相手の気持ちを考えながら話したり、質問したりすることに難しさや緊張を感じており、「コミュニケーションは簡単ではない」と実感しているようであった。一方で、表情や目線、声のトーンなどの非言語的要素を意識することで、話しやすさが変わり、相手との距離が縮まったと感じた生徒も多かった。また、意識して関わることで会話が楽しくなり、笑顔が増えたという記述も見られた。相手との価値観の違いや、新しい考えに触れる面白さに気づいた様子もうかがえた。 ② あなたにとって、心と心が「つながる」コミュニケーションとは？ 「相手の話をよく聞いて尊重する」「共感したり、意気投合したりすること」「対等な関係で仲良くすること」「自分と相手がお互いに歩み寄っていること」「言語や文化に違いや差があっても、認め合える関係になれるって素敵なこと」「言葉ではわからない感情や思いが、つながること」「本心話せる」「安心感」 この問いに対する記述から、生徒が、心と心が「つながる」コミュニケーションを、人と人との関係性であると認識した様子うかがえた。つまり、正確な言葉や、高度なスキルよりも、相手の話を聞こうとする姿勢や、共感し認		

め合おうとする態度、尊重し合い対等な関係に関わることが、心が「つながる」ために重要な役割を果たしていると考えた生徒が多く見られたようであった。言語や文化が異なっても、**相手を認め合い、安心して話せる関係が大切**であるという理解が深まっている様子もうかがえた。また、**笑顔や表情、雰囲気**といった非言語的要素が、**人と人をつなぐ重要な役割を果たしている**ことに気づいた生徒も多かった。

③ 今日の授業を通して感じたこと・学んだこと

「英語をもっと頑張りたい」「英語ができれば外国の人とも仲良くなれる」「これから英語を勉強して海外に行きたい」「完璧じゃなくても挑戦することが大切」「もっとこういう授業をやしてほしい」

本授業を通して、生徒たちがコミュニケーションについて深く考えたことに加え、英語に対する捉え方や、学習意欲にも変化が見受けられた。英語を「人と人をつなぐための手段」と捉える記述が多く見られ、「**英語をもっと頑張りたい**」「**世界の人と話してみたい**」といった前向きな意欲につながっていたようである。これは、**教員**のタンザニアでの具体的な経験エピソードを聞く中で、身近な存在が英語を使うことで、タンザニアや、そこに住む人々となつがり、想いを分かち合っていたということを知り、それを自分ごととして考える中で、「**英語が、世界と自分を結びつけてくれる意味のある言語である**」と実感したことが、英語学習への内発的動機づけにつながっていたかもしれない。

また、「**もっとこういう授業をやしてほしい**」という記述から、単に文法やスピーキングの技能練習としてではなく、**人と人が関わる上で大切なことを、英語と結び付けて考える学び**に、価値を感じていたことがうかがえる。英語を、単なる教科としてだけでなく、国際社会で用いる言語として捉え、他者とつながるために必要な姿勢や、考え方を扱う本授業には、生徒の側からの学習ニーズがあることもうかがえた。

【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

タンザニアに実際に訪れ、現地の人々と会話を交わし、共に参加した教員と対話を重ね、さらに自分自身の学びを振り返る過程を通して、改めて自分が大切にしたい価値観や、生徒に伝えたい想いを整理することができた。特に、現地を訪問し視察させていただいたからこそ、タンザニアという国の様子を知るにとどまらず、その豊かさに心を打たれたり、学校教育の在り方や国際協力について葛藤やジレンマを抱いたりする経験を得ることができた。

実際に「見て」「聞いて」「感じた」からこそ、あらゆる場面において、「彼らにとって、そして私たちにとって本当に大切なことは何か」という問いを自分自身に投げかけ、対話を重ねることができたと考える。その問い続ける時間と過程そのものが、かけがえのない学びの時間であったと振り返っている。

本授業では、**授業実践者**がタンザニアで現地の人々や参加した教員と会話をする中で感じた「距離感」や「寂しさ」と、一方でコミュニケーションを通して他者同士が築いていたように感じられた「つながり」をテーマとした。人々がつながるために必要なコミュニケーションとは何か、また国際人として求められるコミュニケーションとはどのようなものかについて、生徒と共に考える授業実践を試みた。授業を通して、生徒には、互いを尊重する姿勢を基盤としたコミュニケーションの大切さ、オープンマインドで他者と関わること、そして Willingness to Communicate（積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢）の重要性を伝えることを目指した。また、国際的な場面において、英語が人と人をつなぐ役割を果たすことへの気づきを促し、英語学習への動機づけにつなげることも意図した。さらに、タンザニアという国

	を通して世界へと視野を広げ、生徒が世界に対して関心を持つきっかけを提供することも、本授業の目的の一つである。
12. 苦労した点	コミュニケーションを知識として理解させるだけでなく、生徒が実践を通して体感できるアクティビティの設定に苦労した。抽象的なテーマを、限られた教材・時間・環境の中で具体化し、生徒が自分事として捉えられる形に落とし込む必要があった。
13. 改善点	生徒に「コミュニケーションとは何か」という問いを深く考えさせることを優先した結果、授業中の英語使用量が限定的となった点は今後の課題である。内容理解と探究を重視しつつも、生徒の英語レベルに応じて英語使用率を高める工夫をしていく。
14. 成果が出た点	授業終了後、ある生徒が「先生、今日の授業、すごく楽しかった！」と声をかけてくれた。理由を尋ねると、「こういう大切なことを、クラスの人々と一緒に考えるのがとても良かった」と話してくれた。この生徒の言葉は、本実践の成果を象徴するものであると感じている。 また、「10. 学びの軌跡」で述べたように、生徒一人ひとりがコミュニケーションについて深く考え、自分の言葉で「心と心がつながるコミュニケーションとは何か」を表現しようとする姿が見られた。その記述からは、生徒が他者との関わりの中で内省を深めている様子が読み取れた。 また、所属校の4名の教員にも授業を担当してもらい、タンザニアでの経験や学びを共有する機会にもなった。その点においても、本研修および授業実践は実りのあるものであったと考える。 また、「英語をもっと頑張りたい」という生徒の声が多く見られたことに加え、そのような変化が生まれた背景に目を向けることができた点も、本実践の成果である。英語の授業は、正確さや使用量だけでなく、学ぶ意味や文脈を大切にすることで、生徒の学習意欲を高める可能性があることに気づく機会となった。これは、今後の英語教育において重要な要素の一つであると考えられる。
15. 自由記述	AIの発達により翻訳が身近になる中で、英語の授業で何を扱い、どのような力を育てるのかを改めて考える機会となった。文法や語彙などは個人学習でも補える一方、学校という場には、多様な他者と関わることで生まれる学びがある。 本実践では、英語を知識や技能としてではなく、文化や価値観、コミュニケーションの在り方と結び付けて扱い、「正しさ」よりも「理解しようとする姿勢」や「伝え合おうとする態度」に目を向けた。国際社会においては、言語技術だけでなく、相手を尊重する姿勢が不可欠であり、こうした価値観を英語の授業で扱う意義は大きいのではないかと考える。

参考資料・使用教科書：

<https://mba.globis.ac.jp/careernote/1181.html>

<https://jp.indeed.com/career-advice/career-development/good-communicator-characteristics>